

# rd-13. 正規分布

データサイエンス演習  
(R システムを使用)

<https://www.kkaneko.jp/de/rd/index.html>

金子邦彦



# コイン投げ



- コインを投げて，裏か表を出す． コインに仕掛けなどはない



# コイン投げでの「表の枚数」は変数

- コインが200枚あるとする  
200枚を一斉に投げて、表の枚数を数える  
→ 何度も繰り返す

(例)

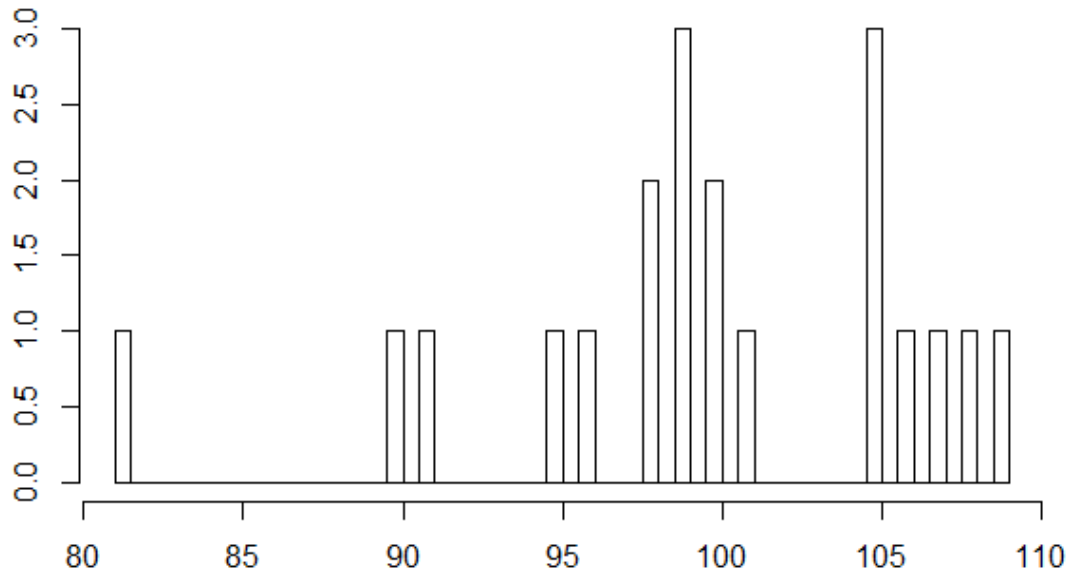
97, 100, 111, 96, 87, 93, 99, 99, 104, 92, 112, 98, 94,  
101, 108, 98, 100, 117, 103, 100, ...

# 分布の例



- コインが200枚あるとする
- 200枚を一斉に投げて、表の枚数を数える

それが  
起きた回数  
(頻度)



表の枚数

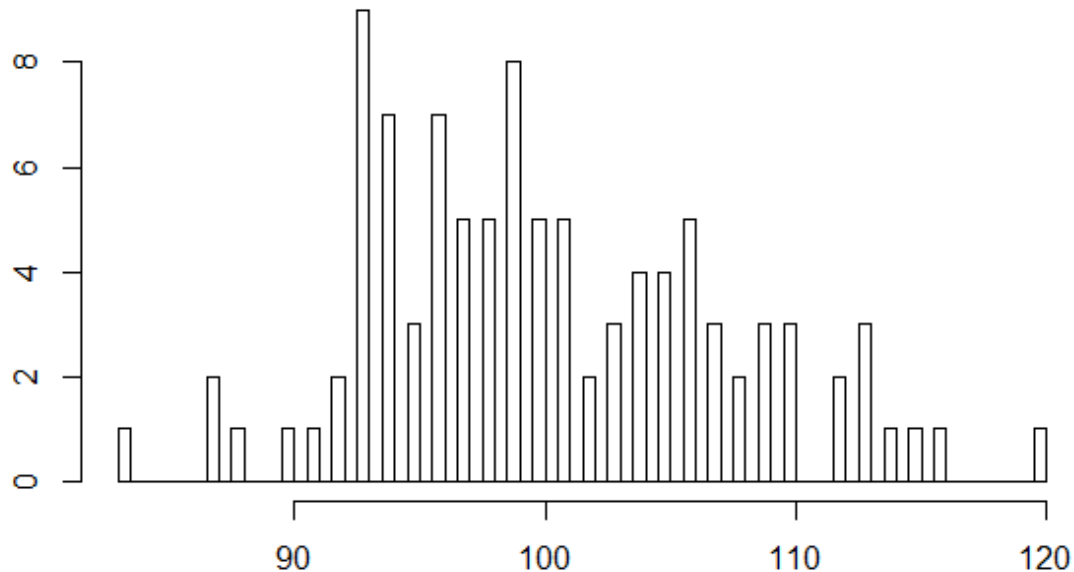
200回投げたときの例

# 分布の例



- コインが200枚あるとする
- 200枚を一斉に投げて、表の枚数を数える

それが  
起きた回数  
(頻度)



表の枚数

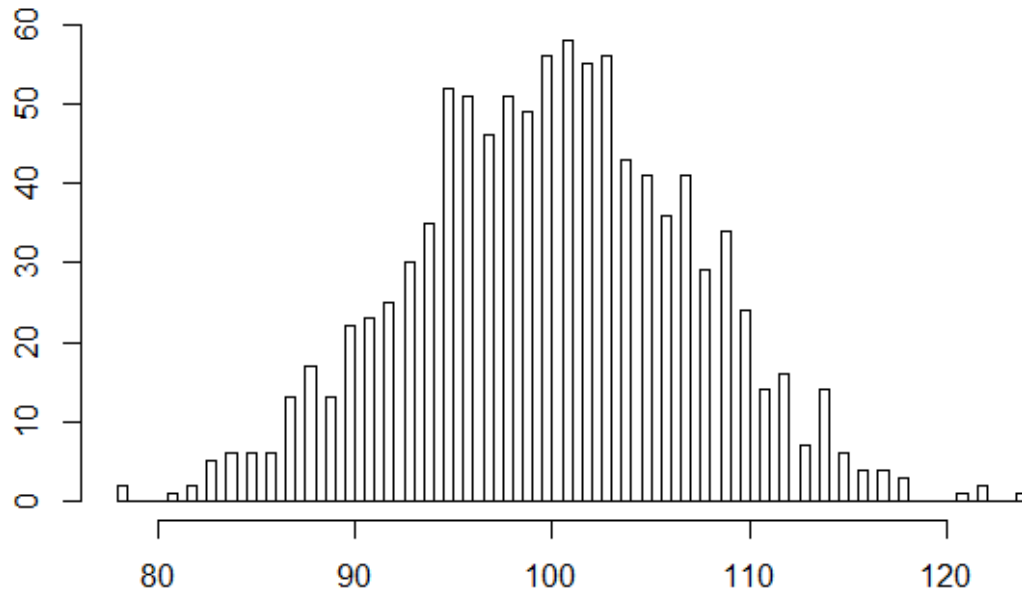
100回投げたときの例

# 分布の例



- コインが200枚あるとする
- 200枚を一斉に投げて、表の枚数を数える

それが  
起きた回数  
(頻度)



表の枚数

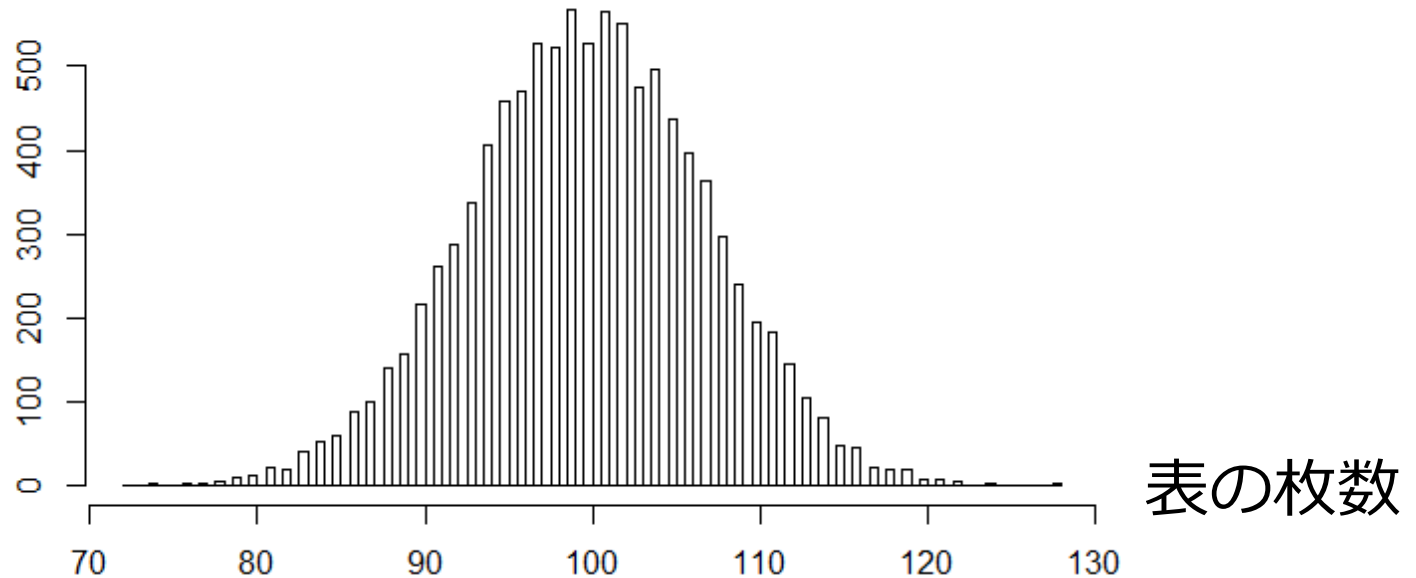
1000回投げたときの例

# 分布の例



- コインが200枚あるとする
- 200枚を一斉に投げて、表の枚数を数える

それが  
起きた回数  
(頻度)



10000回投げたときの例



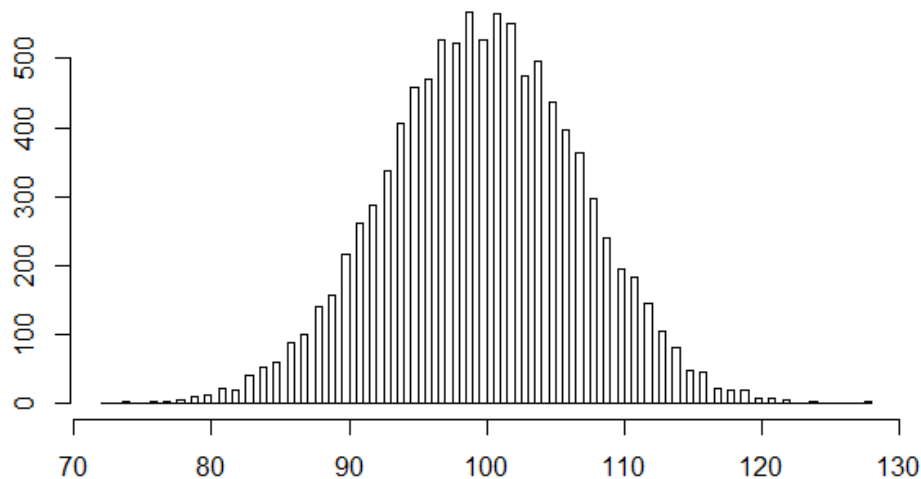
- コイン投げゲーム
  - コインを200枚を一斉に投げる（1回勝負）
  - 表の枚数が110枚以上なら 勝ち
  - 表の枚数が109枚以下なら 負け
  
- この勝負に勝てそうか？





## • コイン投げゲーム

- コインを200枚を一斉に投げる（1回勝負）
- 表の枚数が110枚以上なら 勝ち
- 表の枚数が109枚以下なら 負け



10000回投げてみたら、  
表の枚数が**110**枚以上

**894**回

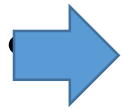
表の枚数が**109**枚以下

**9106**回

**8.9**パーセントくらいの  
確率で勝てそう！

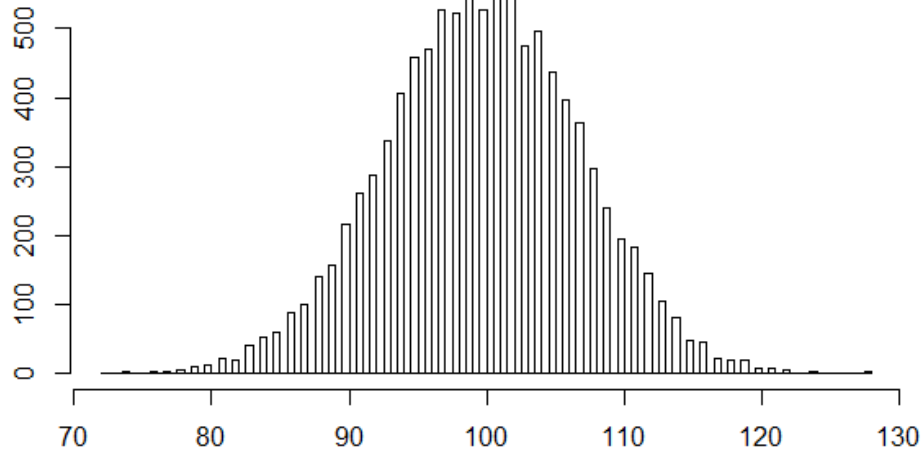


- 勝率 5% のゲーム (100 回に 5 回勝てそうなゲーム) を作りたいとする



コイン 200 枚を投げて, 112 枚以上表立ったら勝ちゲーム

それが  
起きた回数  
(頻度)



10000 回投げてみたら,  
表の枚数が **112** 枚以上

**518** 回

表の枚数が **111** 枚以下

**9482** 回

**5.2** パーセントくらいの  
確率で勝てそう



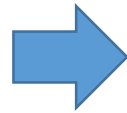
# 4-5 母平均と母分散の活用例

# 今から行うことのイメージ



値が変化する何か

<変数>



たくさんの標本



母平均, 母分散の推定値



合成データを生成し,  
その分布をみる

# Rで、母平均と母分散から、データを合成



- `rnorm(10, 100, sqrt(400))`

`rnorm(<合成したいデータ数>, <母平均値>, sqrt(<母分散値>))`

母平均 100, 母分散 400 のとき

- 合成データの生成 (サイズ: 10)

```
> rnorm(10, 100, sqrt(400))
[1] 92.38700 91.20082 108.99707 107.13639 77.12594
[6] 119.15499 84.30894 97.81648 119.54392 100.52586
> |
```

- 合成データを生成し,  
その後, 小数点以下を四捨五入 (サイズ: 10)

```
round(rnorm(10, 100,
sqrt(400)))
```

```
> round(rnorm(10, 100, sqrt(400)))
[1] 60 95 92 80 67 106 104 88 103 107
> |
```

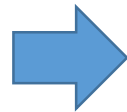
小数点以下の四捨五入には `round` を使う

# Rで、母平均と母分散から、データを合成



値が変化する何か

<変数>



たくさんの標本



母平均, 母分散の推定値

母平均 100  
母分散 400



合成データを生成する

元の変数と性質が同じような合成データを生成

```
> round( rnorm(10, 100, sqrt(400)) )  
[1] 60 95 92 80 67 106 104 88 103 107  
> |
```

# Rで、母平均と母分散から、データを合成



```
> round( rnorm(10, 100, sqrt(400)) )
[1] 91 63 135 89 80 134 139 106 94 84
> round( rnorm(10, 100, sqrt(400)) )
[1] 108 73 103 60 109 105 73 115 116 66
> round( rnorm(10, 100, sqrt(400)) )
[1] 104 118 79 100 109 124 71 136 114 65
> round( rnorm(10, 100, sqrt(400)) )
[1] 68 117 70 121 89 86 54 115 144 99
```

```
round( rnorm(10, 100, sqrt(400)) )
round( rnorm(10, 100, sqrt(400)) )
round( rnorm(10, 100, sqrt(400)) )
round( rnorm(10, 100, sqrt(400)) )
```

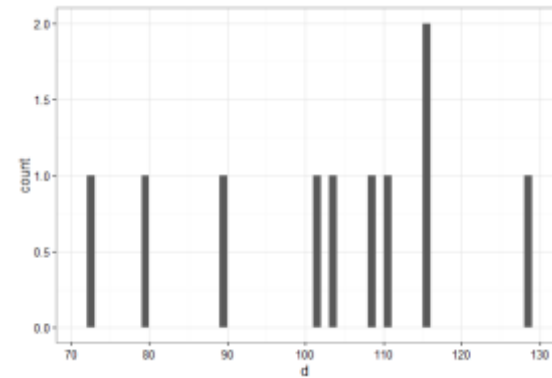
```
> round( rnorm(20, 100, sqrt(400)) )
[1] 79 101 134 91 98 117 144 108 89 98 78 113 111 112 81 76
115
[18] 88 124 81
> round( rnorm(30, 100, sqrt(400)) )
[1] 100 108 96 134 97 106 119 109 70 70 106 84 86 89 127 100
71
[18] 76 92 77 81 66 114 127 93 83 86 108 67 79
>
```

```
round( rnorm(20, 100, sqrt(400)) )
round( rnorm(30, 100, sqrt(400)) )
```

# 合成データの頻度分布（ヒストグラム）



```
> d  
[1] 89 128 103 110 108 115 101 115 72 79  
> |
```



```
library(dplyr)  
library(ggplot2)  
d <- round( rnorm(10, 100, sqrt(400)) )  
ggplot(data_frame(d), aes(x = d)) +  
  geom_histogram(binwidth=1) +  
  theme_bw()
```

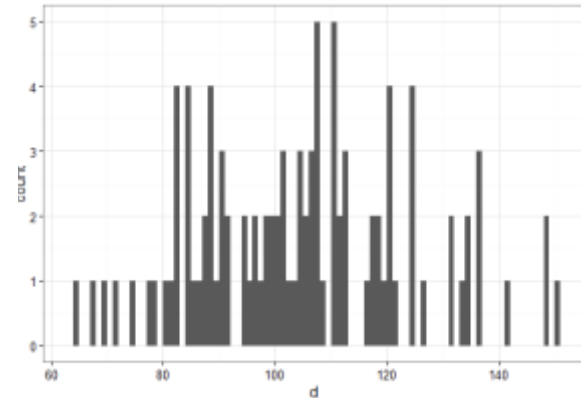
ベクトルデータの  
頻度分布（ヒストグラム）



# 合成データの頻度分布（ヒストグラム）



```
> d
[1] 107  95 124 134  98  67  78 107 148 107  88 111 120  88 106 136  89
[18] 133  80  90  84  82  99 124  84 104  88 118  97 150 101  94 120 104
[35]  87 100 100  82 131 112 131 111  91 106 110 124 134  77  85 105  74
[52]  82  71  84  87  96 136 119 107  94 108 141  64 101  82  90 120  91
[69]  84 106 110  96  81 103  98 110 110 126  88 136 120  69 102 118 104
[86] 112 105 148 107 110  99  90 124 112 121  86 117 116 117 101
```

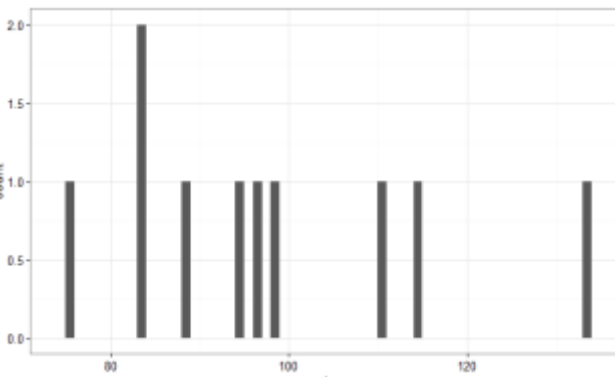


今回は 100

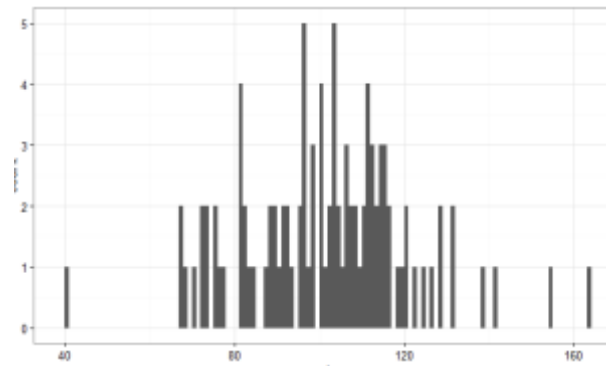
```
library(dplyr)
library(ggplot2)
d <- round( rnorm(100, 100, sqrt(400)) )
ggplot(data_frame(d), aes(x = d)) +
  geom_histogram(binwidth=1) +
  theme_bw()
```

ベクトルデータの  
頻度分布（ヒストグラム）

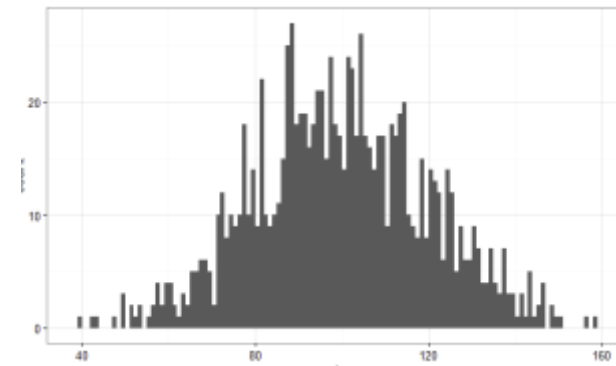
# 合成データの頻度分布 (ヒストグラム) (1 / 2)



サイズ10の  
ときの頻度分布



サイズ100の  
ときの頻度分布



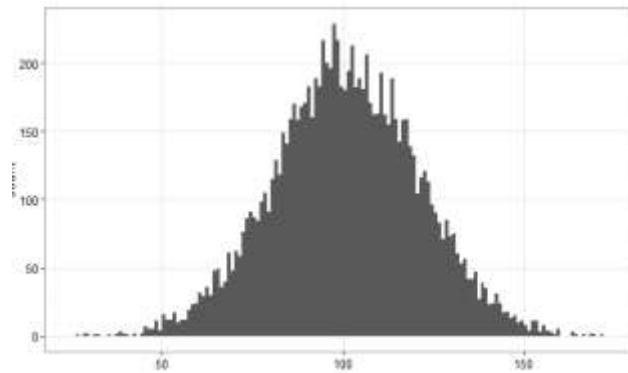
サイズ1000の  
ときの頻度分布

# 合成データの頻度分布（ヒストグラム） （2 / 2）

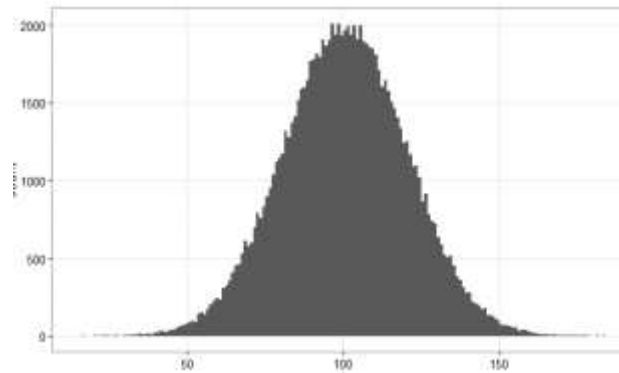


- 母平均と母分散で，合成された合成データの頻度分布（ヒストグラム）は，合成データのサイズを増やすと，正規分布になる

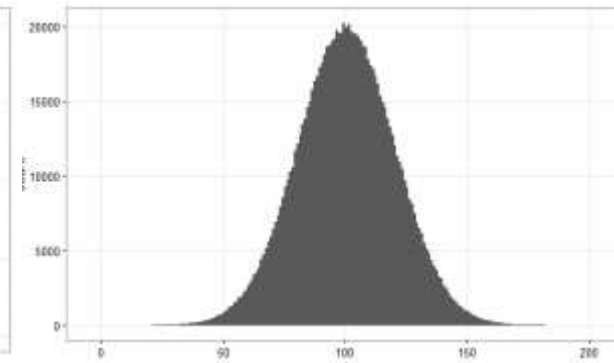
合成データのサイズを増やすほど，  
頻度分布（ヒストグラム）のカーブは  
**滑らか**になる



**サイズ10000の  
ときの頻度分布**



**サイズ100000  
のときの頻度分布**



**サイズ1000000  
のときの頻度分布**